

H30物理環境調査報告

平成 31 年 2 月 27 日

札幌開発建設部 江別河川事務所

1. 遮水整備の経緯

- 遮水整備前の夕張川高水敷に残っている高位泥炭は、段差部分から水分のしみ出しが見られ、泥炭表面の乾燥・分解が進行していた。
- 平成28年度に段差部分の遮水盛土施工を実施。

遮水盛土施工前

ひび割れ・乾燥化



遮水盛土施工後

湿潤状態を維持



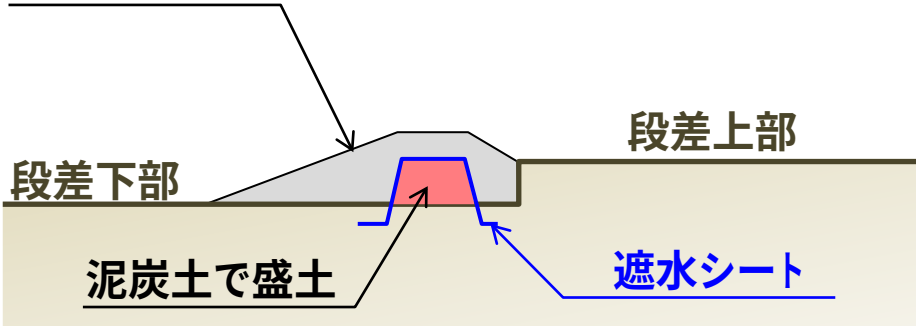
泥炭土で覆土

段差下部

段差上部

泥炭土で盛土

遮水シート



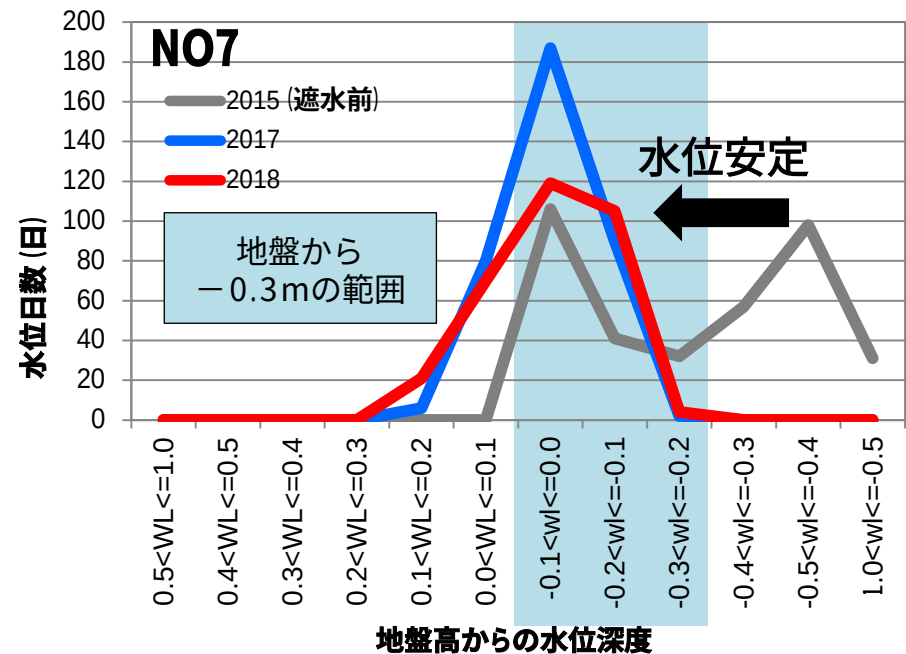
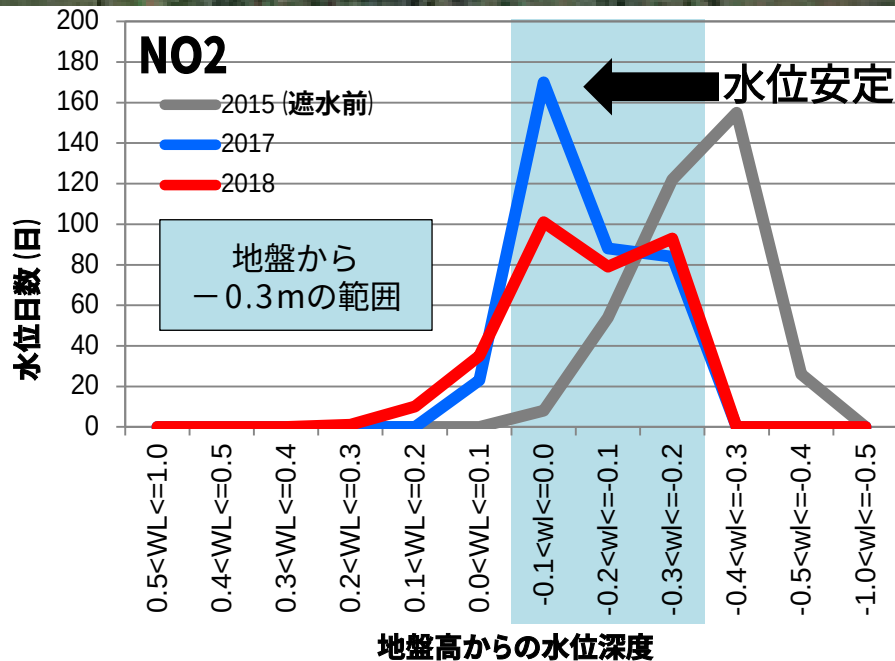
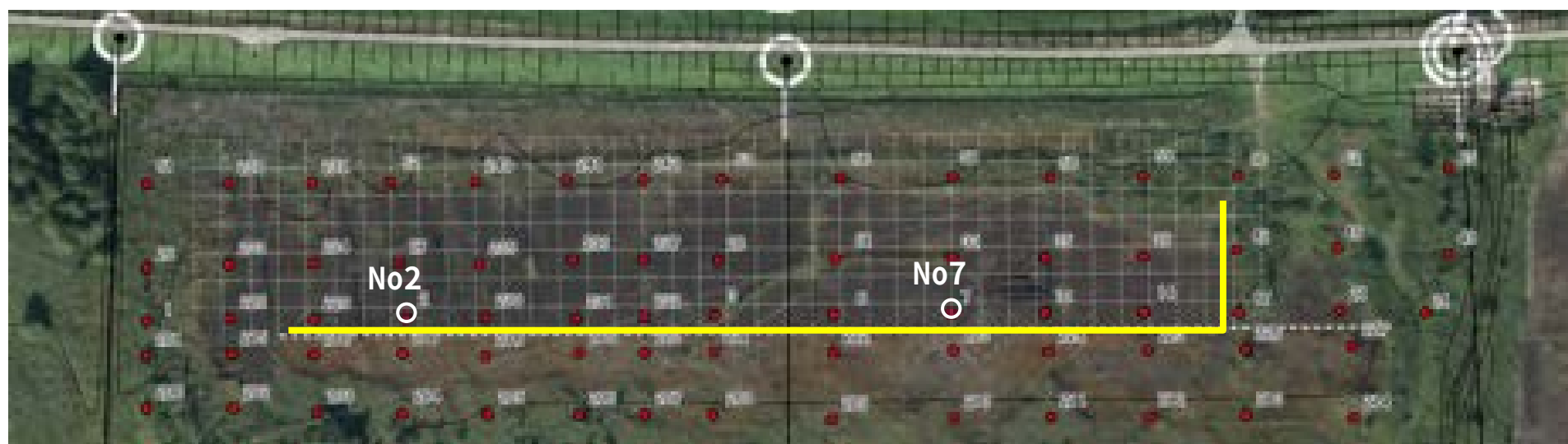
ボグの定着条件

- ①地表面水位が安定して維持されること。
- ②地表面水位が降雨のみで涵養される貧栄養な水質であること。



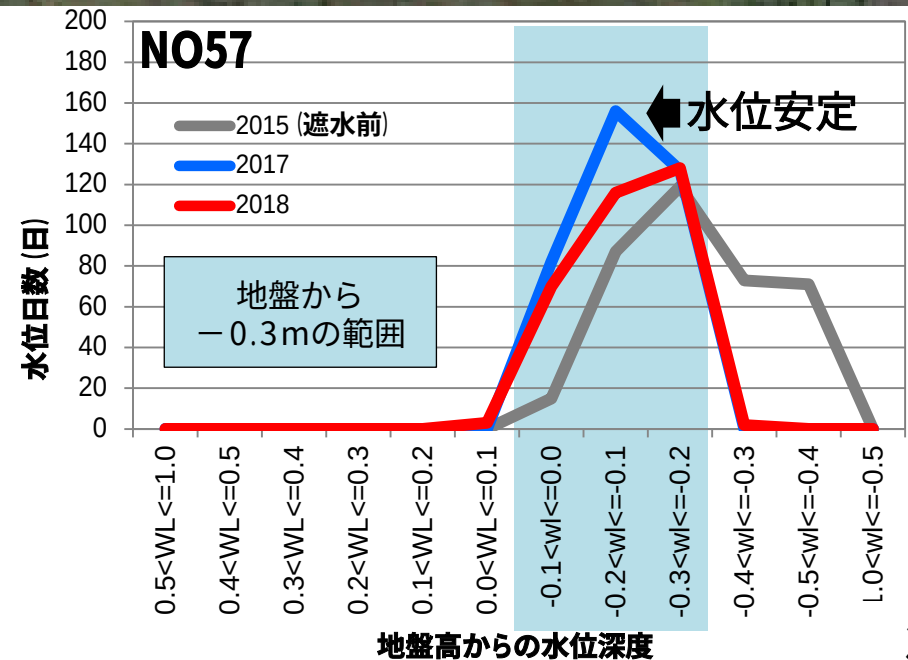
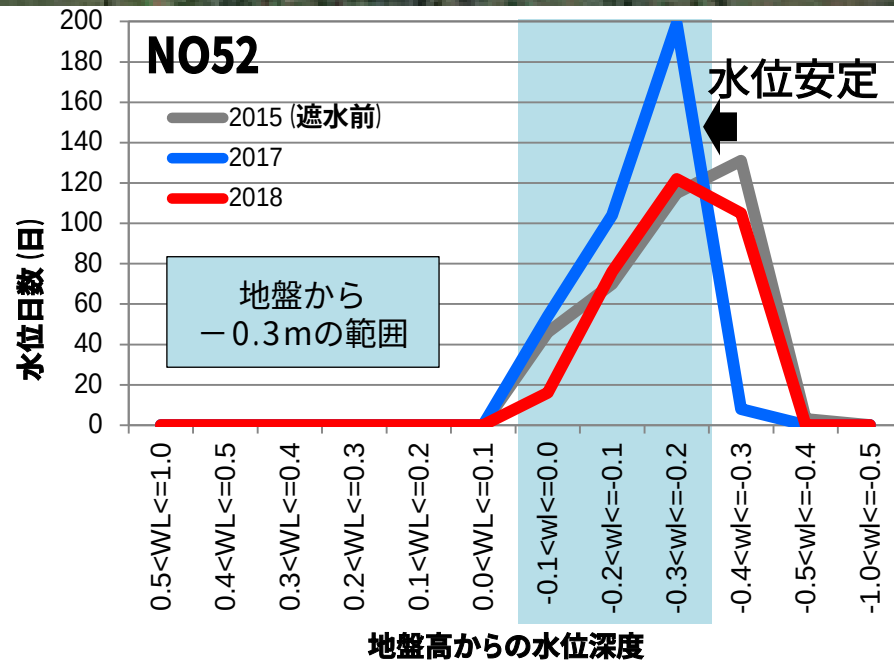
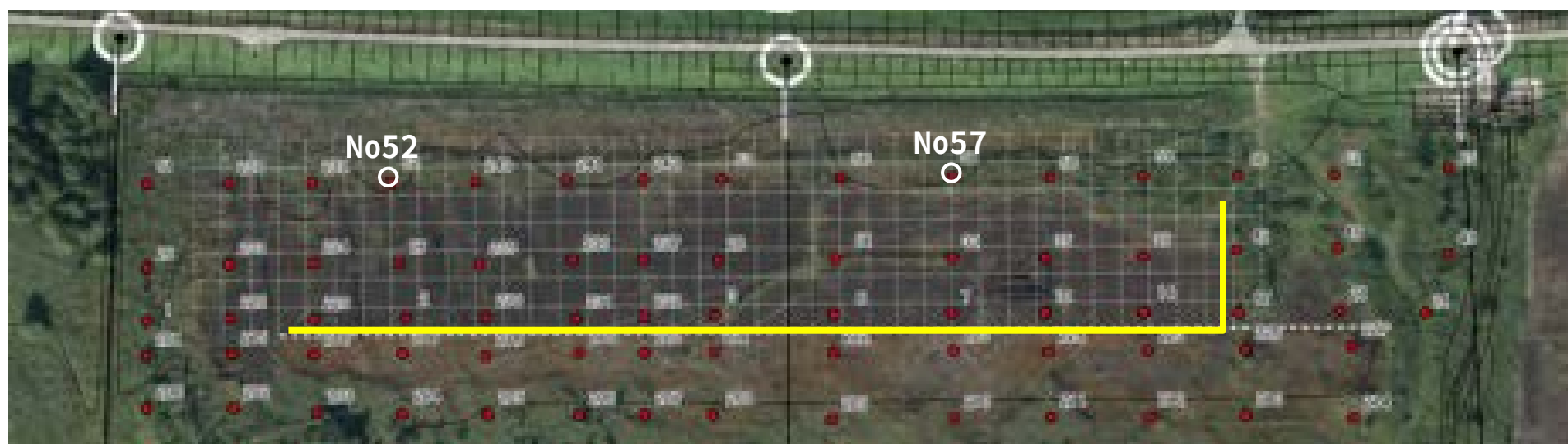
1. 基盤状況の変化（地表面水位）

Ⅰ 遮水整備以前に比べ、地表面から30cm以内の水位を維持する日数が増加。



1. 基盤状況の変化（地表面水位）

Ⅰ 遮水整備以前に比べ、地表面から30cm以内の水位を維持する日数が増加。



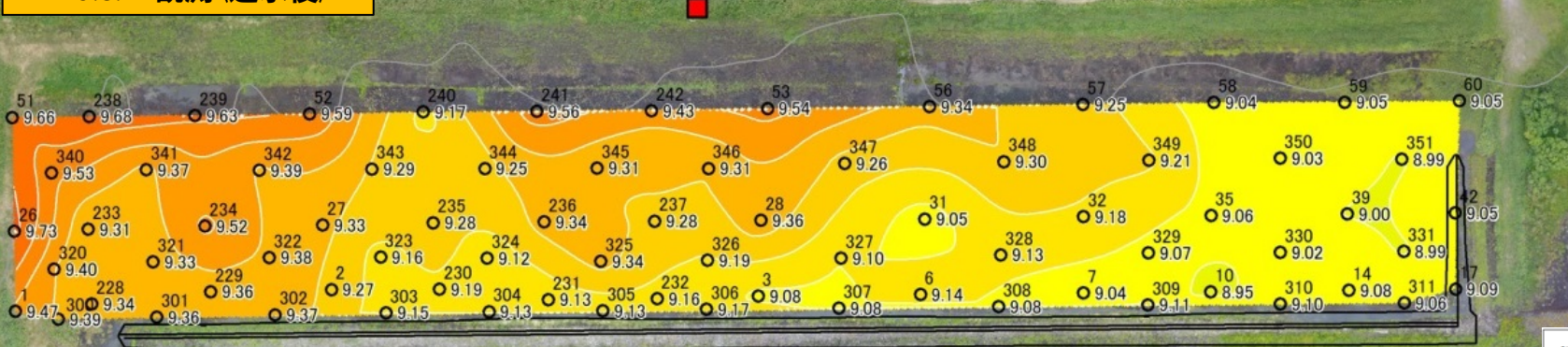
1. 基盤状況の変化 (標高水位)

Ⅰ 遮水整備以前に比べ、地表面から30cm以内の水位を維持する日数が増加。

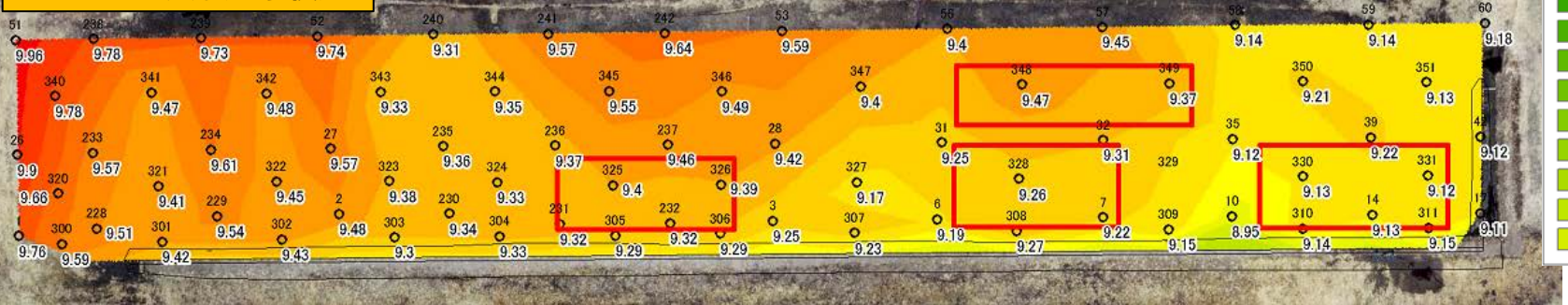
H28.6.16観測 (遮水前)



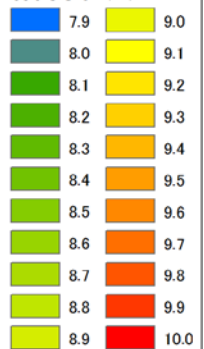
H29.8.17観測 (遮水後)



H30.8.22観測 (遮水後)



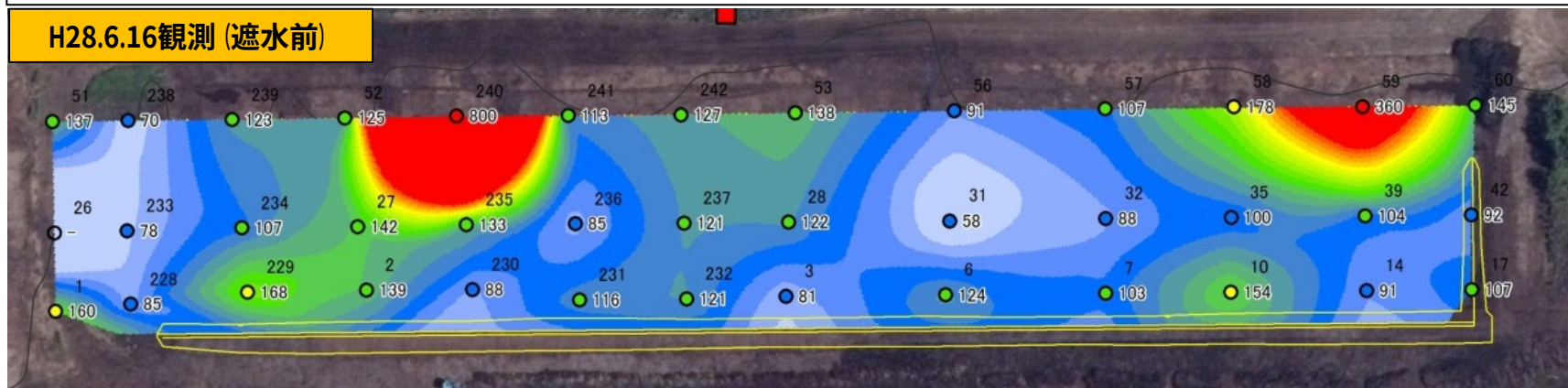
標高水位(m)



1. 基盤状況の変化 (EC)

I 貧栄養の環境 ($100 \mu\text{S}/\text{cm}$ 以下) を維持している。

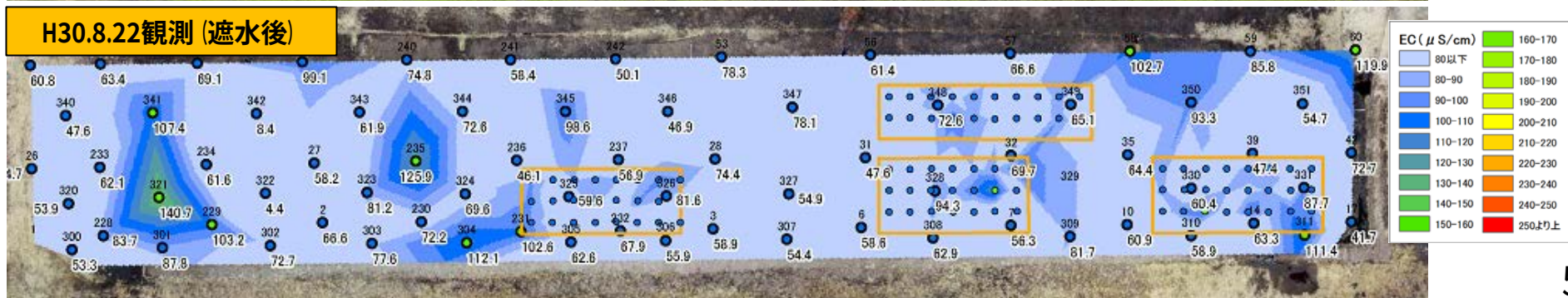
H28.6.16観測 (遮水前)



H29.8.17観測 (遮水後)



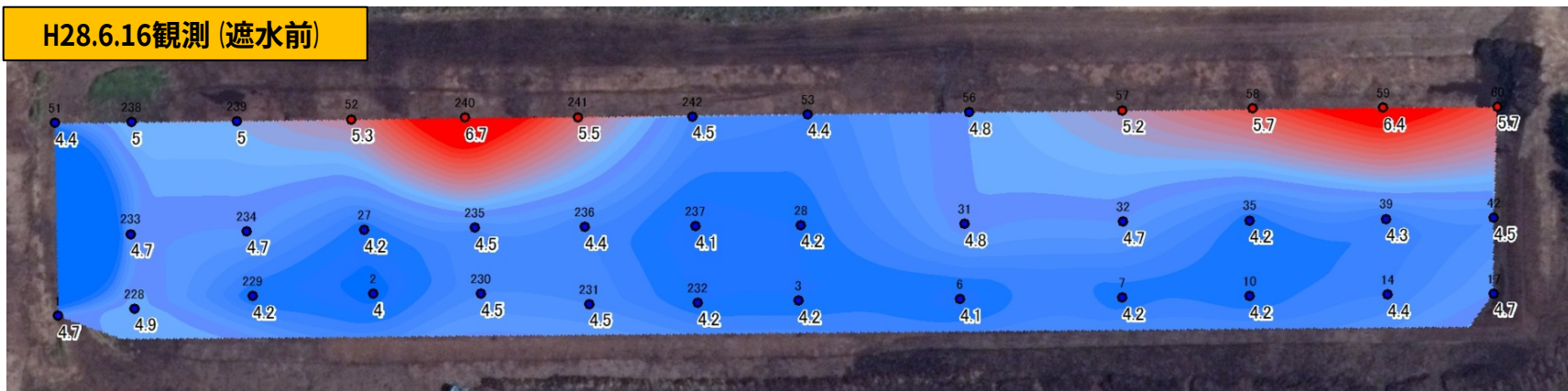
H30.8.22観測 (遮水後)



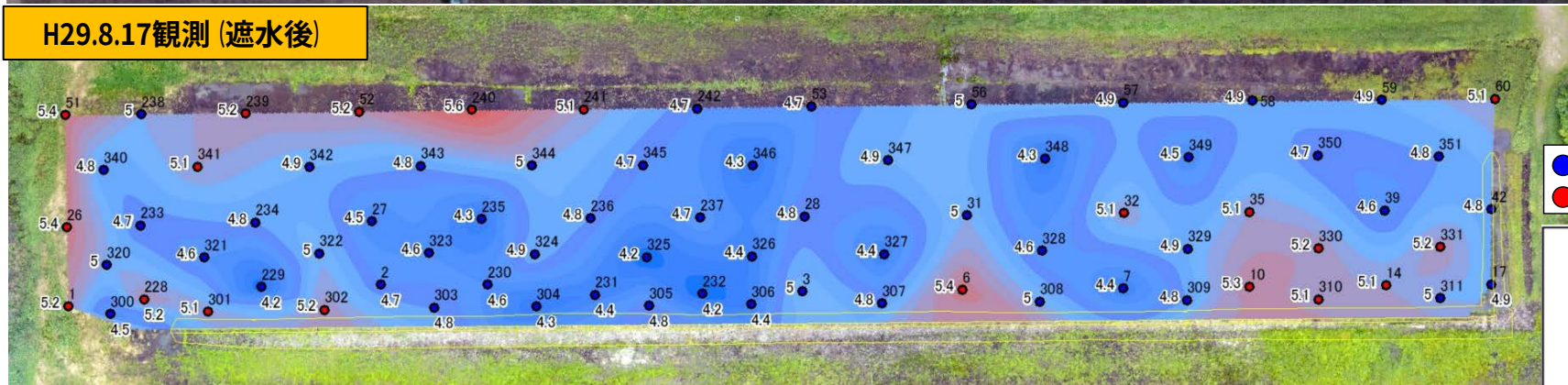
1. 基盤状況の変化 (pH)

I 貧栄養の環境 (5以下) を維持している。

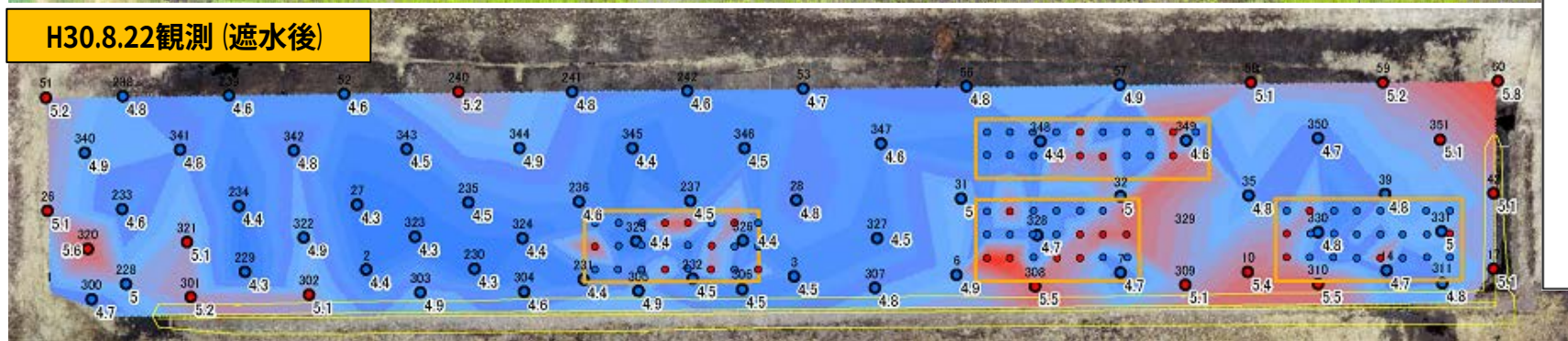
H28.6.16観測 (遮水前)



H29.8.17観測 (遮水後)

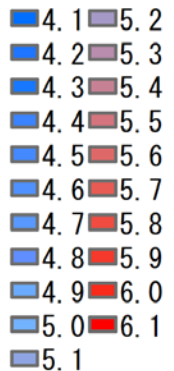


H30.8.22観測 (遮水後)



● 5以下
● 5より上

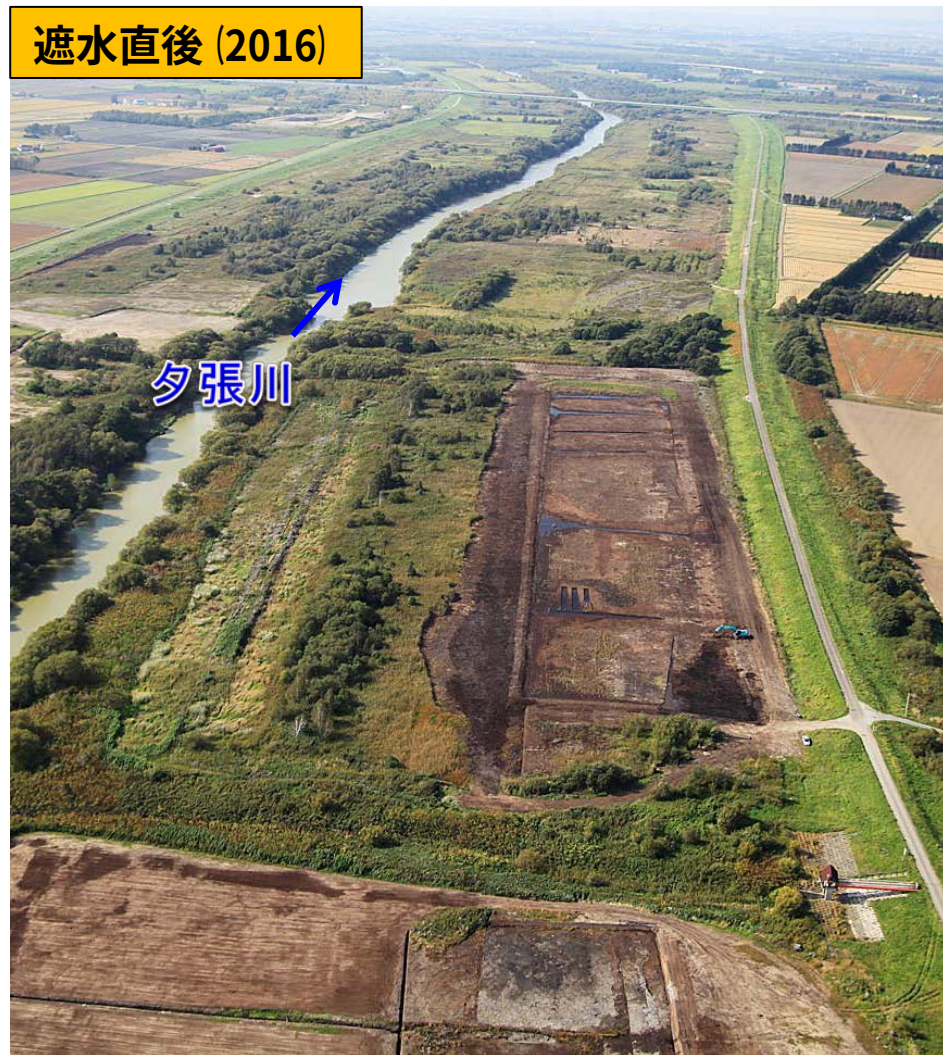
pH



2. 今年度のまとめ

- Ⅰ 遮水整備後の物理環境は、ボグの環境を維持できる条件を満たしている。
- Ⅰ 次年度も引き続き、地表面水位、EC、pHの観測を継続する。

遮水直後 (2016)



遮水後 (2018)

